

# “BEAT” Seat Trim Cover 取り外し/組付け要領

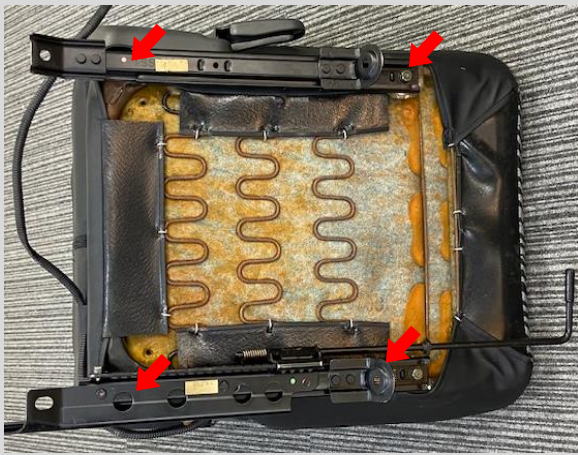
取り外し組付けはお近くのディーラー又は椅子張り屋で行なえると思いますが、ご自身で行われる方の為にご参考までに外し/組み付け手順を添えておきます。



Beat Seat Trim Cover お届け荷姿

<必要な工具>

- ・トリムカバー脱着時: レンチ、6mm六角レンチ、ニッパー、オームクリップ及びオームペンチ(無い場合はタイラップ/紐等でも可・・・手間がかかりますが)
- ・ウレタン補修を行う場合: スプレーボンド(3M 77等)、補修用布地、ウレタンブロック/ウレタンフォーム等  
同梱のウレタンフォーム(ラミネート用ですから密度は低いですが)もご利用できる様ならお使いください。



スライドレールをシートから外す。  
(レールをスライドさせ外してください)



リクライニングレバーを外す。  
(はめ込んであるだけです。)



リクライニングカバーを外す。



前方下から斜め上に押しながら外す。



シート座と背を止めているボルトを外す。



反対側も外す。



シートバック(背)とクッション(座)が外せます。助手席も同様です。



シートクッション部からトリムカバーを外す作業です。  
シートクッションを裏向けます。  
トリムカバーを止めているオームクリップを全て外します。  
(オームクリップは非常に固いですからニッパーよりクイキリ、ワイヤーカッター等がお勧めです)



シートのサイドボルスター部と座面部の吊りこみ部の  
オームクリップを外します。

座面センターの吊り込み部のクリップも外します。



古いトリムカバーが外れました。



新しいトリムカバーを付けていきます。



3

最初に座面部センターの吊りこみ部から留めていきます。

次にサイドボルスター部と座面の吊りこみ部を全周留めます。



溝に合わせて被せていきます。



裏面の縫い代は外側になる様に。



被せ終わったら裏面を全周クリップで留めていきます。トリムカバーにタルミが出ない様に強く引っ張って留めて下さい。



全周留めます。



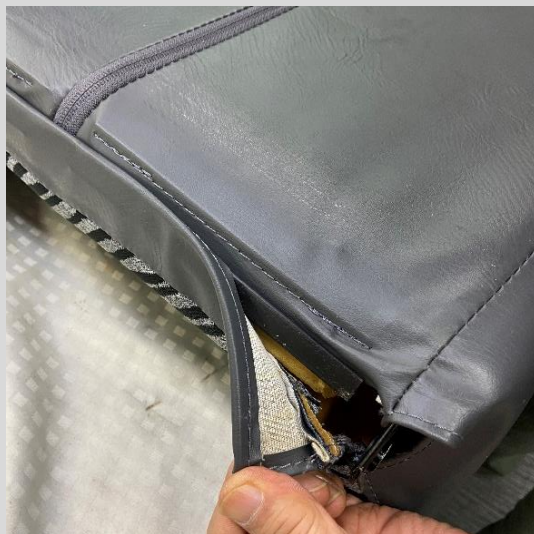
縫い代の方向などを確認しながら手で慣らします。



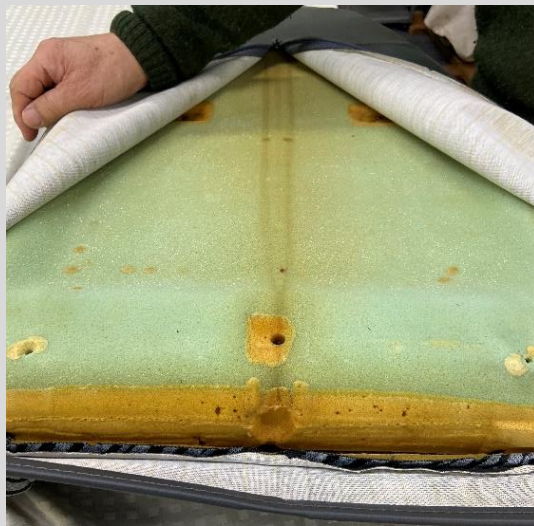
座面部が完成。



次にシートバック(背)の方に取り掛かります。



シート下部の樹脂フックを外します。(挟み込んであるだけです)



シート背面のファスナーを開けます。





シートトリムカバーをめくり上げシートセンター部の吊り込み部にあるクリップを外します。



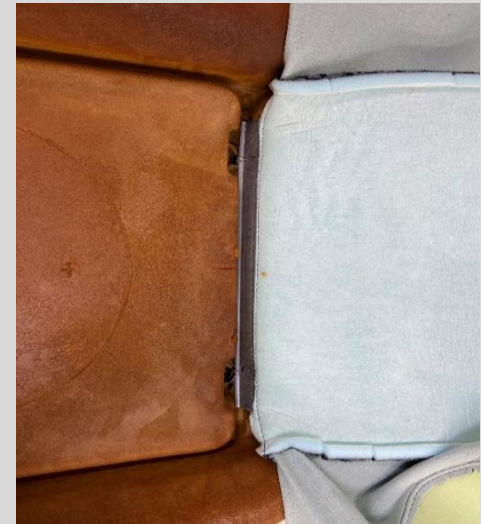
同様にヘッドレストの下部にある吊り込み部のクリップも外します。



古いトリムカバーが外れました。



新しいトリムカバーを付けていきます。



新しいトリムカバーを被せ外した時と逆の手順でヘッドレスト下部の吊り込み、センター部の吊り込みの順に留めていきます。



溝に合わせて被せていきます。



縫い代が外(サイドマチ方向)になる様に被せファスナーを閉じます。



9 下部の樹脂クリップを留めます。留め辛い場合はマイナスドライバーなどを使い挿し込んでください。



リクライニングブラケットを取り付けるシート座面部サイド部に穴を開けます。  
 (トリムカバーの被せ状態により穴の位置がずれますから開けてありませんので)

リクライニングブラケットを留め反対側も留めます。



リクライニングカバーをはめ込み  
 ドライバーで留めます。

リクライニングレバーを挿し込み完成。



トリムカバーのタルミ等は手でしごいて調整して下さい。上から布をあてスチームをかけると効果があります。  
 ただし、あまり温度の高い蒸気ですと合成皮革が硬くなり縮みが発生しますからご注意ください。



これで完成です。

傷んでいるシートの上レタン基材を補修する場合の参考に

簡易バージョンとロクゼロで行なう場合の作業手順を次ページ以降に載せておきます。

トライしてみてください！

補修用に5mmの上レタンフォームは同梱してありますが、他の厚みの物が必要な場合は  
お近くの大きなホームセンターか手芸屋で入手できると思います。

(車両用物性の物では無いと思いますがトリムカバーの下に使う物ですから代替品でも大きな問題は無いです。)

## ウレタン本体が傷んでいる場合の補修方法(簡易)



単に切れている場合

切れている部位を接着した後に上から薄い布などで補強します。



ウレタンがちぎれてフレームが露出している場合 痩せている部位を布などで補強しウレタンフォーム(基布の付いている方を表に)を貼り付けます。

逆側のサイドボルスター部も経年変化でウレタンが痩せている可能性が大ですから同様にウレタンフォームを貼った方が良いでしょう。

シートの背のウレタンが日光や汗などで劣化していたり、クッション部がへたっている場合は、その部位にウレタンフォームを貼って下さい。(14Pに写真)  
(今回のトリムカバーのシートセンター部には量産の7mmより厚めの10mmのウレタンラミネートを使用していますからある程度カバーできると思いますが。)

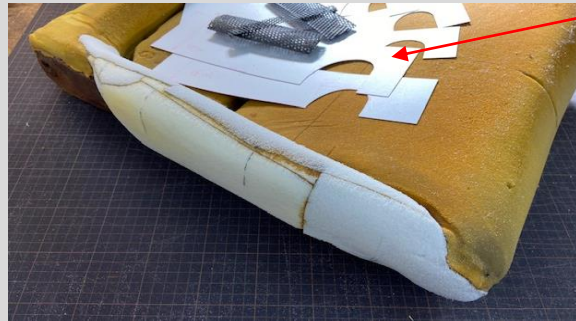
# ウレタン本体が傷んでいる場合の補修方法(ロクゼロの方法)



ウレタンがちぎれフレームが露出している場合



正常な状態のガバリ(型紙)を取った後に不良箇所をカットし、シートと同じ密度のウレタンブロックで改修。



ガバリに合わせて成型していきます。



薄い布地を上から貼って完成。

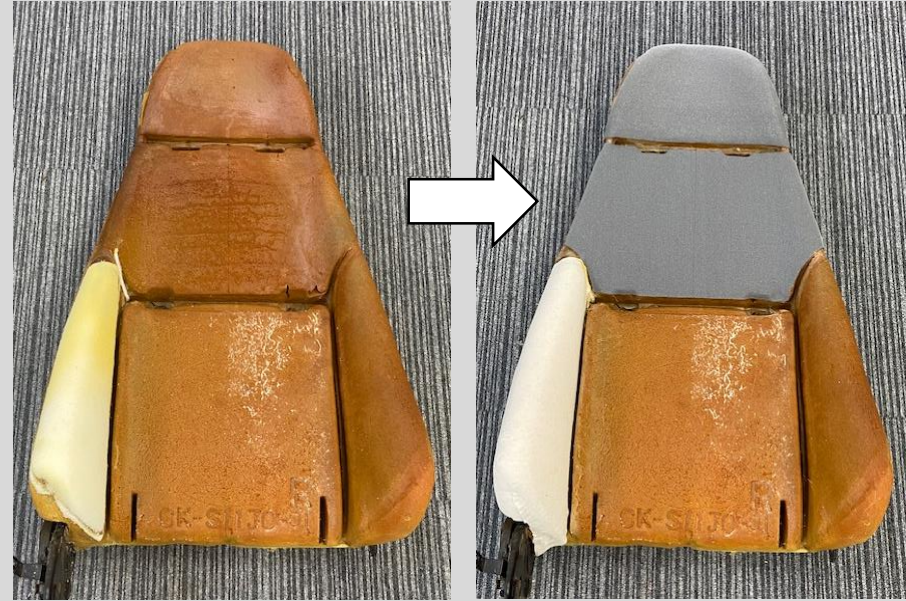


サイドボクスター部は正常に見えても多くの場合経年変化でウレタンが痩せていますのでその部位に同密度のウレタンを貼り成型し修正をします。

## ウレタン本体が傷んでいる場合の補修方法(ロクゼロの方法)



同様に乗降時に痛んだシートバック(背)も修正します。



日光や汗で劣化した部位には薄めのウレタンを貼り保護します。



長年の使用でクッション部にヘタリが出てる場合は状況によりウレタンを貼り座り心地を改善します。





NSX Type-Rの純正スエードで貼ったBeat



お客様の要望で黒デニム生地で貼ったBeat(衣料用素材ですから物性は?ですが)

ウレタン基部の修正/トリムカバー貼り替えは当社でも行ないますから必要な場合はご連絡ください。お客様のご要望(サイドサポートの強化、クッション性の向上、腰痛対策など)にもウレタン形状を直して快適にお使い頂ける様な個別対応もさせていただきます。

素材はゼブラ柄布地に限らず、お客様のニーズに合った表皮材での貼り替えも承ります。純正品をお望みの場合は、本革及びNSXをはじめINTEGRA/CIVICのType-Rに使用のスエード生地等、通気性をお望みの方にはそれらにパンチング(パーフォレーション)加工を施した物も用意しております。より通気性の良いNSX O2Type-R等に使用のメッシュ表皮も現在再現中で近日中には用意できます。雨・太陽光を気にせずオープンを楽しみたい方には、当社独自の耐候耐水レザーもご提供できます。(耐候耐水レザーに関してはH/Pに載せておりますからご参照ください)